
どうくつの悪魔

水谷鞠子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

どうくつの悪魔

【Nコード】

N0692I

【作者名】

水谷鞠子

【あらすじ】

どうくつにずっと住んでいた悪魔。そんな悪魔が人間の命を求めて、男と旅をします。小さいときに読んだ童話のようなおはなし。

ずっと昔のおはなしです。

街から少しはなれたところに、小さなどうくつがありました。

そこには、一人の悪魔が住んでいました。

ある日悪魔は人間の命がほしくなり、街に出かけました。

悪魔が道を進んでいると、足をひきずった男がゆっくりと歩いてきます。

悪魔は男に近づいて言いました。

「俺がお前の足を治してやろう。そのかわり、お前の一番大切なものを俺にくれ。」

男はうなずきました。「わかった。私の一番大切なものをお前にやろう。」

悪魔が手をひと振りすると、男の足はすっかりと治りました。

「お前の一番大切なものはなんだ？」

悪魔はしめしめと笑いました。なぜなら、人間の一番大切なものは命だと知っていたからです。

男はごそごそと鞆から何やら大きなものを取り出して、悪魔にさしだしました。

「私の一番大切なものは、このコートだ。」

このコートがなかったら、今日の朝、寒くて凍え死んでいただろう。」

悪魔はしぶしぶとそのコートをうけとりました。

男がウソをついているようには見えなかったからです。

男が、先に進もうと歩きだしたので、悪魔もついていくことにしました。

まだ、悪魔は男の命をあきらめきれなかったからです。

男と悪魔が出発してから、ほどなく太陽が照ってきて、とても暑く

なってきました。

男はシャツを一枚着ているだけで、涼しそうでした。しかし、悪魔は男にもらったコートを着ていたので、汗がだらだら出てきて、今にも倒れそうでした。

とうとう悪魔は我慢できなくなつて、「こんなものはいらない!」とコートを男に返しました。

「そうかい。」男は言いました。

「お前さんがいらないって言ったのだから、このコートは私のものだよ。」

男はコートを鞆の中に入れ、また先に進みました。

突然雨が降ってきました。

それはやがて、どしゃぶりの雨になりました。

男は傘をさして、悪魔も中に入れてやりました。

しかし、幸運なことに雨はすぐにやみました。

男と悪魔は、また歩き出します。

しばらく歩いていると、大きな川があるのが見えました。

しかし、その川には橋がかかっていません。

悪魔はしめしめと思いました。

「俺がこの川に橋をかけてやろう。そのかわり、お前の一番大切なものを俺にくれ。」

男はうなずきました。「わかった。私の一番大切なものをお前にやろう。」

悪魔が手をひと振りすると、たちまち川に橋がかかりました。

「お前の一番大切なものはなんだ?」

悪魔はやっと、男の命をもらえと思っていました。

しかし、男はさっきまでさしていた傘を取り出して、悪魔に差し出しました。

「私の一番大切なものは、この傘だ。」

この傘がなかったら、さっきの雨でずぶぬれになっていただろう。それに、お前さんが風邪をひいていたかもしれない。」

悪魔はしぶしぶ、その傘を受け取りました。

やっぱり、男がウソをついているようには見えなかったからです。

男と悪魔は橋をわたりました。

しばらくして、悪魔は傘が邪魔になってきました。

悪魔は鞆を持っていなかったので、傘を入れるところありません。それに、もう雨は降りそうにありません。

悪魔はどうとう我慢できなくなって、「こんなものはいらない！」と傘を男に返しました。

「そうかい。」男は言いました。

「お前さんがいらないと言ったんだから、この傘はもう私のものだよ。」

男と悪魔が森にさしかかると、だんだんと暗くなってきました。

そこで男と悪魔は、森で野宿をすることにしました。

すっかりと太陽はしずみ、寒くなってきたので、男はコートを着て眠りました。

しかし、悪魔はコートを持っていなかったので、寒くて眠れませんでした。

太陽が昇ると、男と悪魔はまた出発しました。

森の中を通っていたので、朝露が木からぽたぽたと落ちてきます。

男は傘をさして歩いたので、一滴も、男の肩に落ちることはありませんでした。

しかし、悪魔は傘を持っていなかったので、しずくがたくさん落ちて、ずぶぬれになりました。

男と悪魔は街に出ました。

街の真ん中に行ってみると、そこには王さまのおふれがはられていました。

王さまの娘であるお姫さまが、ふじの病気だというものでした。その病気を治したものは、婿として城に迎え入れるということです。悪魔はしめしめと思い、男に言いました。

「俺がこの姫さまを治してやろう。それで、お前の手柄にするがいい。」

そのかわり、お前の一番大切なものを俺にくれ。」

男はうなずきました。「わかった。私の一番大切なものをお前にやろう。」

男と悪魔は城に行き、お姫さまのもとへ行きました。

悪魔が手をひと振りすると、すっかりとお姫さまの体は良くなりました。

王さまは喜び、男を婿にむかえようと、すぐに結婚式をさせました。結婚式のあと、悪魔は男に言いました。

「お前の一番大切なものはなんだ？」

すると男は、笑顔で悪魔を見ました。

「私の一番大切なものは、悪魔、お前さ。」

お前がいなかったら、ここまで来ることはできなかっただろう。

それに、こんなに幸せになることはなかった。

とても惜しいが、お前をお前のもとに返そう。」

悪魔が怒って帰っていったのは言うまでもありません。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0692i/>

どうくつの悪魔

2010年10月15日20時26分発行